

日本文化の根源は神社にあり!

日本らしさ、日本人らしさを理解し、 海外に発信してこそが真の国際人だ!!



神社人サイト運営者 東條英利氏プロフィー ル・・1972年生まれ埼玉県出身、株式會社 カルチャージ代表取締役。東條英機の直系曾 孫。日本独自の社会公益事業モデルを模索し、 神社並びに神道の存在に着目。神社を通じた カルチャー・ツーリズムを提唱し、新たな地 域コミュニティと文化エンターテイメントの 再生を目指している。5月24日の著書『日 本人の証明』の出版に伴い、全国にて講演活 動を精力的に行う。

本格的な国際化社会を迎え、今以上に海外の人たちとの交流が進むのは間違いない。『日本』 『日本人』について詳しく語れることも益々要求されてくるであろう。そこで今回は、神社 文化振興ポータルサイト『神社人』を運営する東條英利氏に、明治神宮で通訳ガイドボラン テイアの活動をする津田塾大学3年の千浜優さんがお話を聞いた。



Q1:神社のポータルサイトを作ろうと思ったきっか けは何ですか?また、神道の一番の魅力は何だ と思いますか?

A1:日本文化に特化したポータルサイトを作ろうと 思ったのがそもそもきっかけですが、日本文化 の源泉である神道について調べているうちに、 日本には、8万社以上の神社があることがわか りました。しかし、そのデータベースが無かっ たんですね。それなら、自分でやってみようと、 神社を巡って、写真を撮ったり、歴史を調べた りすることを始めたんです。

私も神社について、始めから詳しかったわけではありませんが、多くの神社を巡っているう ちに、それぞれの神社がその土地において、歴史的な意味がありとてもユニークな存在であ ることがわかってきました。3年がかりで900以上の神社を巡りましたが、神社同士の関連 性なども段々と見えてきて、多くの新しい発見がありました。これも自分の足で歩かないと わからなかったことだと思います。それと、神道は宗教というより、『想いの集合体』と考 えると理解しやすいと思います。例えば、歴史的に漁業で生計を立てていた地域では、人々 の『安全な航海への祈り』が元になって、『海の守り神』が祭られたりしています。大阪の 住吉大社なんかがそうですね。多くの神社を巡るとその当時の人々の想いが感じられます。 そんな場所は神社しかないのではないでしょうか。

また、ご祭神は、必ずしも日本のものばかりではありません

その土地に関係がある海外から来た人たちが祭られている神社もあります。仏教やその他の 海外からの考えや文化を積極的に受け入れる日本文化の特徴も神道の『寛容性』から来てい ると思います。それと、神道には、キリスト教や仏教のような戒律や経典も存在しません。 神社にはご神体として鏡が置いてありますが、それは、鏡に写った自分の姿の中に『神』は あるということを示しています。他の宗教の様に、理想の自分になるために『教えを守りな さい』というより『答えを自分の中に見つけなさい』という姿勢ですね。だから『神教(神

の教え)』ではなく、『神道(神の道)』なのです。その理想の自分に近づく方法は、あえて 言うと、『他者感謝』つまり、万物に感謝するということです。

その原始的でシンプルな自然崇拝の考え方が、自然と共生する新しい生活スタイルとして今 見直されています。一番古くて新しいこの価値観が、日本発でもっと発信されると素晴らし いですね。

Q2:日本と天皇の関係をわかりやすく教えてもらえますか?また『日本を守る』とはどうい うことだと思いますか?

A2:私の活動の原点は、『建国記念の日』の意味を良く理解することです。日本国は、2672 年続く天皇を国家元首と仰ぐ『世界最古の国』として、王制を敷く国家でも広く認め られています。しかし、そのことが義務教育では、正確に教えられておらず一般には あまり知られていません。もし、今の天皇制が無くなれば、日本国も無くなってしま います。それ位、天皇制を保持していくことは大切なことなんです。

『日本を守る』とは、日本らしさ、日本人らしさを守っていくことだと思います。昔は 祖父母が子や孫の世代に日本の国の良さや素晴らしい美徳を伝承して来ました。3.11 の大震災の時も、ほとんど大きな暴動なども起こらず、お互い助け合った東北の人た ちの姿は、世界でも驚きを持って報じられました。トルコでも大きな震災があった時、 『日本を見習え』という考えが民衆に広がり、大きな暴動などにも発展することが無かっ たと聞いています。しかし一方では、経済合理性を追求した結果、日本は10兆円以上 もの食料を廃棄している『残飯大国』でもあります。日本人はかつて大部分が農民で、 自然の恵みに感謝し生きてきました。新しい価値観を求められている今こそ、『物』や 『仲間』を大切にしてきた農耕民族としての『日本人の美徳』を思い起こす必要がある と思います。

Q3:今を生きる日本人の若者に一番必要心構えは何だと思いますか?またこれから迎える国 際化社会にどのように向きっていけばいいと思いますか?

A3:挑戦する意欲でしょうかね。私も、サラリーマン時代、自分で志願して4年間香港で 駐在した経験があります。それが、今の活動にも繋がっていると感じます。人生は長 いので、守りに入るのではなく、若いうちにどんどん何にでも挑戦してほしいですね。 失敗を恐れず海外に飛び出し自分と考え方が違う人とたくさん触れ合ってください。 そうすれば、やがては、自分の自我に目覚めるようになり、『日本らしさ』『日本人ら しさ』に気づき、真の国際人になれると思います。

東條さんへのインタビューの感想 (津田塾大学3年 千浜優)



私が最も感銘を受けたのは、世の中には色々な考え方、思想があ るということを理解が大切だというお話です。そのことで、日本 人であるということを自分自身が良く理解し、日本らしさ、他者 との違いを発見できると思います。その過程を通して、日本人と してのアイデンティティが確立し、独自性が生まれ、国際社会で 活躍出来るようになると思いました。私たち若い世代は、『日本ら しさ・日本人らしさ』を理解せず、十分な準備もなく、グローバ ル時代を迎えようとしていますが、もう一度、日本の文化、伝統 を学び直し、自分のアイデンティティを見出だす事が大切だと感

じました。東條さんの神社データーベースなど学ぶための教材は沢山ありますので、自 分なりにどのように学んでいくか考えていきたいと思いました。

日本文化を楽しむ カルチャル・コミュニティーサイト・神社人



『日本人のルーツは?』 『私の生まれた町の由来は?』 『祝祭日の本当の意味は?』

知っていそうで知らないことばかり。 海外に行った時や、外国人の友人に日 本のことを聞かれてれ、うまく答えら れなかった経験はありませんか? 『神社人』は、そんな疑問に答えてく

れる、日本文化の源泉である神社・神道の情報がわかりやすく掲載されたポータルサイト。 古事記に出てくる神々のお話なども、イラストを使って分かりやすく解説されています。 まずは、自分の生まれ故郷や住んでいる町の神社について調べてみましょう。 きっと新しい発見があるはず。

日本人の証明

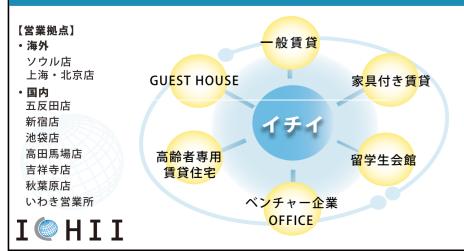


東條家という特異な家に生まれた著者が、みずからのこ れまでの体験と、日本人として抱くべき誇りについて語 る、ユニークな日本人論。グローバル化に対応できない 日本人に、神道を基軸とした逆転の発想を提示し、失わ れた誇りと自信を復活させよ、と説く。

出版記念特別企画として、全国 12 都市でキャラバンを 開催。キャラバンフィナーレとして 2012年6月16日 (土) 16:30~19:00、明治天皇の玄孫にあたる、作 家 竹田恒泰氏を特別ゲストに迎え、東京都品川区学研ビ ルにて、特別講演会「始まりは1000人の証明」(定員 300 名) を実施いたします。

住まいがすべての出発点

グローバルに不動産事業を展開するイチイグループ



本書・すべての日本人:推薦します。 竹田恒泰

マンスリーマンション・ゲストハウス

■イチイグループ取扱い賃貸物件

- ・レンタルオフィス・デザイナーズマンション
- ・ミュージシャン マンション
- ・ペット共生型賃貸住宅・高齢者専用賃貸住宅
- ・家具付賃貸マンション・留学生会館
- ・マルチハビテーション
- 一般賃貸(東京 23 区中心に約 7000 室)

■一般賃貸事業 ■高齢者賃貸住宅事業

詳細はお問い合わせください。



■お問い合わせ 株式会社 イチイ

東京都新宿区新宿 6-7-1 【設立】昭和 55年 TEL: 03-5379-5272 (人事部)

http://www.ichii-re.co.jp mail:hellowork@ichii-re.co.jp

Shrines are the Roots of Japanese Culture.

A truly international person is one who understands what Japan and the Japanese are and can relay this overseas.

Profile of Hidetoshi Tojo, webmaster of 'Jinjyajin' website

Tojo, the CEO of Culcharge Co. Ltd., was born in 1972 in Saitama as the grandson of Hideki Tojo, the 40th Prime Minister of Japan during World War II. Investigating the model of Japanese nonprofit sector, he focused on the presence of shrines and Shinto. He promotes cultural tourism through shrines, in order to revitalize local communities and their cultures. On May 24th his book, The Proof of the Japanese, was published. Following this, he began lecturing extensively across the nation.

As an internationalized society, we will further communicate with people from other countries. However, there will always be more to understand about 'Japan' and 'Japanese.' In this edition, Ms. Yu Chihama interviewed Mr. Hidetoshi Tojo, who published The Proof of the Japanese on May 24th. Ms. Chihama is in her third year at Tsuda College, and she is a volunteer interpreting guide for Meiji Jingu.

Q1: What inspired you to create the shrine database? What do you think is the most attractive aspect of Shinto?

A1: It all started when I thought of making a web portal focusing on Japanese culture. As I was doing the research on Shinto, which is closely related to Japanese culture, I found that there are more than 80.000 shrines in Japan. However, there were no databases on shrines, so I decided to make one. I started visiting shrines, taking photos, and studying

I was not familiar with shrines before, but through visiting a number of them, I came to understand that each shrine has its own unique identity and history that connects its community with its pasts. Visiting more than 900 shrines over three years, I gradually became aware of the relationships between one shrine and another, and this in turn led to other discoveries.

I would not know such things if I had not experienced it first hand. I think it would be easier to understand Shinto not as a religion but a 'collection of thoughts.' For example, those who made a living from fishing have enshrined 'God of the Sea' to pray for safety at sea. Sumiyoshi Grand Shrine in Osaka is one of the shrines where people go to pray to the 'God of the Sea.' When visiting many shrines, we can understand people's thoughts back then, and this is the only place where we can feel the connection with the people of the past.

The objects of worship are not only Japanese. In fact, there are shrines dedicated to people from foreign countries. The openness of Shinto allow the Japanese to accept beliefs and ideas from overseas like Buddhism. Furthermore, Shinto has no doctrine or commandments such as those in Christianity or Buddhism.

A mirror normally sits on the altar in a shrine. It is said that one can find "Kami" (God) in the reflection of oneself. In Shinto's belief, one has to find the answer in oneself. It is different from other religions that teach people to follow the doctrine to be an ideal self. That is why in Japanese it means 'the road of God(s)' rather than 'teachings of God(s).' The path to one's ideal self is through appreciation of others, meaning having gratitude for

This simple form of worship in nature is

considered as new lifestyle that coexists with nature. Although this is one of the oldest concepts, it would be great if we can expand this as a new concept from Japan.

Q2: Would you tell me the relationship between the emperor and Japan? What do vou think is the idea of 'protecting Japan'?

A2: My activities started from understanding 'National Foundation Day.' Japan has been 'the oldest country' that has been governed by an emperor for 2.672 years, and recognized by countries that have a monarchy. However, this is not taught in compulsory education and thus not recognized by the public. If the imperial system is lost, Japan will lose itself as a country. It is based on that which emphasizes the importance of keeping the imperial system.

'Protecting Japan' means to protect the essence of Japan and the Japanese. Ancestors have passed on tradition and beauty of Japan to the next generations. The world witnessed people from the Tohoku area helping each other without disorder after the earthquake on March 11th. When there was a devastating catastrophe in Turkey, the public learned from Japan's orderly conduct.

On the other hand, as the result of pursuing a rational economy, Japan is a country that wastes more than 1 trillion yen worth of food. Most Japanese used to be farmers and appreciated what nature has given us. We need to remember 'the Japanese aesthetic' from the farmers' perspective of cherishing 'objects' and 'mateship.'

Q3: What attitude is important for young

people to have in Japan? How should they deal with globalization?

A3: With a challenging spirit. When I was a businessman, I requested to transfer to Hong Kong and spent four years there. This experience made me who I am today. Life is long, therefore I hope that people can step out of their safety zone and accept new challenges while they are young.

Don't be afraid of failures and mistakes, and go abroad to meet with those who have different ideas. Then you'll find your identity, realize what Japan and Japanese are, and become a real international person.

(After the interview with Mr. Tojo ,Yu Chihama, Third year student of Tsuda College said)

"I was most impressed by the importance to understand the different views and thoughts of others. From this, we can understand ourselves as Japanese, and discover the identity of Japan and the differences between others. Through this process, we can establish our Japanese identity, create uniqueness, and become an international society. As a young generation, we are heading towards globalization without understanding what Japan and the Japanese are. We should once again learn Japanese culture and traditions and find our own identity. There are many things we can learn from Mr. Tojo's shrine database, and I will consider how to learn those things in my own way."

《Translated by Kaori Asagami (Monash Univ.)》



思いやりのある言葉は短く簡単なものであっても、

その反響はじつに無限である。(マザー テレサ)

Kind words can be short and easy to speak,

but their echoes are truly endless. (Mother teresa)

して通訳ボランティアガイドなのか?

世界は今、急速な国際化社会に向かって、突き進ん でいます。日本も例外ではありません。大都市圏では、 国際結婚のカップルが10組に1組を数え、いろいろ な国から来た留学生や働く外国人の人たちを目にす ることも珍しくなくなりました。しかし、一般的に はまだまだ日本に住んでいる外国人の人たちと親し く付き合っている人は少ない状況です。ましてや海 外からの観光客との接点などはほとんどない人が大 半ではないでしょうか。



ここ数年は1700万人以上の日本人が海外に旅行やビ

ジネスで渡航しています。そこで多くの人たちは現地の普通の人たちの『やさしさ』や『思い やり』の気持ちに感銘を受けて帰国しています。けっして、日本と比べると豊かとはいえない 国の人たちがいきいきと生活していて、外国から訪れている自分たちを歓迎してくれる。

そろそろ、私たち日本人もこころをオープンにして、日本に住んだり、訪れたりしている外国 人の人たちを暖かく迎え入れる必要があるのではないでしょうか。通訳ボランティアガイドの 業務はその歓迎の気持ちを伝えていく大切な使命を持っています。

学生や若者が通訳ボランティアガイドをする5つのメリット

- 1:外国語を話すことに自信⇒語学は度胸だ。
- **2**:外国人の視点で日本の文化に触れる⇒日本の良さを再発見
- 3:相手の国の文化とも比較しながら深くて意味のあるコミュニケーショ ンをすることが出来る。⇒異文化に寛容な気持ちを育る。
- 4:自分がした行為がとても感謝される。感謝される喜びを感じ取れる ようになる。⇒人間の本当の喜びを感じられる。
- **5** :言葉のコミュニケーションが十分でない分、より相手が何を求めて いるのかを理解しようと努力することが出来る。
- ⇒相手への思いやりの気持ち。高度なコミュニケーション能力が身につく。 $\downarrow \downarrow \downarrow$

通訳ボランティアガイドは『生きた語学力』・『思いやりの心』・『コミュニ ケーション能力』と社会人として必要な基礎的能力が総合的に養われると ても有意義な体験である。

グローバルコミュニティー(GC)学生通訳ボランティアガイド 通訳ボランティアガイドに興味のある方は①お名前②年齢③住

んでいる都道府県④学生の場合は学校名⑥英語あるいはその他

使える外国語のレベル等を記入の上、globalcommunity21@gmail.com GC 学生通訳ボランテイアガイド事務局までご連絡ください。詳しい資料と説明会 のご案内をさせていただきます。 (日本人学生・留学生・学生 OBOG の方々 も大歓迎です!!)

初めての参加の方には、明治神宮での模擬ガイドを英語で受けてもらいその後、 実地研修を行います。大事なのは『語学力』より『相手に喜んでもらいたいと いう気持ち』楽しいと思えば、語学も本気で勉強しようという気持ちになります。

メンバーで定期活動中!

明治神宮にて2年生中心の



やる気があれば誰でも出来る通訳ボランティアガイド

学生時代に外国人の人たちを案内して学んだこと



私は高校時代に英語もよくわからないのに観光案内をした経験があります。 留学に対する願望があったのですが、英語を覚えるにしても外国人をあまり 見かけることもない大阪ではどうしようもないとあきらめていました。ある 日、大阪城をランニングしている時に、外国人の年配のご夫婦を見かけるこ とがありました。最初は話しかける勇気がなかったのですがあるとき思い 切って、用意したガイドブックをもってそれを見ながら話しかけました。何 とか相手も自分を理解しようとしてくれたので、どうにか会話が出来ました。

何回かやっているうちにだんだんと慣れてきて、自信もついてきました。つたない英語でも話 せば相手が喜んでくれる。本当に感激しましね。

私は、漠然と外国語には興味はあるけど、外人に話しかける勇気がない、あるいは話すきっかけ がないと思っている人に、ボランティアガイドの楽しさを伝えていき、また人に喜んでもらえる、 ガイドする楽しさを体験してほしいと思っています。(グローバルコミュニティー 宮崎計実)

4 年目を迎える学生通訳ボランテイアの活動

オリンピック招致運動の語学ボランテイア



2009年2月に結成した学生通訳ボランティア連絡会 の初の大仕事は、2009年4月にあった東京オリンピッ ク招致活動の IOC 視察に伴う海外プレスセンターで のお手伝い。英語・中国語・韓国語対応の出来るメ ンバー約50人で1週間のスケジュールをこなす。当 初は、LEAF、AISEC などの国際系学生団体に所属 しているメンバーや英語の得意な留学生、WEB サ イトを見て集まって来た学生、2006年より活動を開 始した『2016年東京オリンピックを望む 学生の会』

の混成チームで活動した。プレス・レセプションにも参加させてもらい、外国人記者クラブの 会長や安藤忠雄さんに突撃インタビューを試みたりと活動的なメンバーが多かった。今年、 2020年のオリンピック招致に向けた活動が開始されたが、同じように IOC の視察に伴う語学 ボランテイアの活動をするとなると2013年の2-4月頃になる予定。

2009年冬から定期的な英語での観光案内体験を明治神宮を拠点に開始。



月1度、東京シティガイドのベテランガイドの方に明治神宮で模 擬ガイドをしてもらい、本格的に英語でのガイドの勉強会をスター ト。ガイド活動希望者がどんどん増加し、参加者は、100名を超 える。

■『神社とお寺の違いを外国の旅行者に分かりやすく説明するに は?』『どうして絵馬に願い事を書くのか?』『なぜ、和装の花嫁 は?』『とつし、伝統に願いする目、シャー』・は角隠しをするのか?』などの質問にも、テキパキと答えるガイ

ドさんに尊敬のまなざし。英語は留学して勉強したが会話が深まらない。日本のことを勉強し ないといけない。そう感じた学生も多かったに違いない。。

2010年にリーダーが男性(新井誠さん 大東文化大4年)から女性(谷岡理絵さん 駒沢大2 年) に移り、女性のメンバーが大多数になる。

うれしいことに社会人になった新井さんは、今でも留学生を誘って遊びに行ったり、色々な国 際交流イベントに関わってくれている。7月には、多くの留学生を連れて富士山に登る計画を しているようだ。谷岡さんは、昨年、初めて開催した国際紅白歌合戦で司会をしたり、歌を歌っ て観光庁長官賞をもらったりと大活躍。今は、後輩の指導などをしてくれている。何事にも懸 命に取り組む姿、人に対する優しい気遣いはこの活動で培ったものだと思う。今は毎週のよう に明治神宮に行って活動しているようだが、定期的な活動をしているメンバーは、みんな明治 神宮の澄み切った空気のようにピュアな学生さんが多い。社会に出ると辛いこともあるかも知 れないが、心の休まる場所が、東京の真ん中にあることは、素晴らしいと思う。